

松岡英子* ○片山律子* 榑原伊奈美**

(*信州大, **飯田女短大)

【目的】有配偶女性が精神的安定を得るうえで、夫婦関係は大きな影響力をもつと考えられる。本報では、夫婦の基本属性および世帯の特性が夫婦関係をどのように規定しているかを検討したうえで、夫婦関係と妻アイデンティティおよび妻の心理的ストレス反応との関係を探ることを目的とする。

【方法】第1報に示したデータを用いて分析を行った。夫婦関係は夫婦のレジャー同伴性（ショッピング、旅行など4項目）、夫の家事分担（6項目）、夫から妻への情緒的サポート（心配ごとを聞いてくれる、アドバイスしてくれるなど6項目）、妻から夫への情緒的サポート（心配ごとを聞いてあげる、アドバイスしてあげるなど6項目）の4変数で捉えた。

【結果】夫婦のレジャー同伴性 ($\alpha = .69$) はライフステージ、妻の職業の有無、夫の就労形態との関連がみられた。夫の家事分担 ($\alpha = .76$) はライフステージ、妻の就労形態との関連がみられた。夫から妻への情緒的サポート ($\alpha = .88$) は妻の就労形態との関連がみられた。妻から夫への情緒的サポート ($\alpha = .83$) はライフステージ、夫の学歴、妻の就労形態との関連がみられた。妻アイデンティティは、妻が専業主婦および自営業の場合に重視されており、夫婦のレジャー同伴性が高く、夫婦相互の情緒的サポートが多いほど妻アイデンティティは高くなる。妻の心理的ストレス反応は、世帯収入に規定され、高収入であるほどストレスは低くなる。また、夫婦関係のなかでは特に夫から妻への情緒的サポートの影響を強く受けている。